

## 令和3年度第4回アーバンデザインセミナー実績報告書

### 1. 開催日時

令和3年10月16日（土） 13時30分～15時00分

参加人数: UDCBK での視聴: 8名、オンライン: 12名=計20名

※オンライン会議システムとUDCBKのオープンスペースでの視聴を併用

### 2. テーマ

「駅から見る未来のまちの風景」

- 今年は、JR南草津駅に新快速が停車して10年の記念すべき年であり、10月には10年後を目標とした「南草津ビジョン」が策定された。また、昨年度は20年後の未来を描く「都市と交通」プロジェクトも実施した。今回は公共交通を担うJR西日本の方とともに、駅から見るまちづくりについて考えていく。

### 3. 話題提供者

- 西日本旅客鉄道株式会社  
草津駅 駅長 北川 久男 氏 / 社員 宇加江 哲 氏  
京都支社 地域共生室 室長 野口 明 氏
- 立命館大学 理工学部 建築都市デザイン学科 准教授  
アーバンデザインセンターびわこ・くさつ 副センター長  
阿部 俊彦 氏



#### 4. 話題の概要

##### (1) 北川氏による冒頭あいさつ

- 南草津駅が誕生して 27 年経つが、誕生の当時を思い起こすと、辺りは田んぼが広がっていた。それが今、マンションが立ち並び、多くの住宅が建ち、商業地も多く、たくさんの方に利用いただける駅になっており喜ばしく思っている。
- 立命館大学 BKC の開学もあり、南草津駅への新快速や特急列車の停車などの出来事があったが、これらは南草津駅が草津駅とともに、草津市と一緒に繁栄してきた証ではないかと考えている。
- 現在、新型コロナウイルス感染症の影響で、JR 西日本は利用者が減少し、非常に苦戦をしている。そういった中、鉄道業全般にわたり、色々な打ち手を考えていかないといけない状況である。
- 駅の業務の中には、機械対応を増やしているという部分もあるが、安全面に関しては手を抜くことなく取り組んでいる。本日は、そういった取組も含めて、皆さんにお示ししていきたいと思っている。

##### (2) 野口氏による講演

###### ア. JR 西日本の概要

- 営業エリアは大変広く、北陸から九州北部まで 2 府 16 県にわたって鉄道業を営んでいる。
- 駅の数 1,174 駅で、輸送人員は 500 万人である。
- 京都支社地域共生室においては、滋賀県、京都府および大阪府の北摂エリアにある 33 の自治体や様々な関係者とともに、連携プロジェクトを進めている。
- 経営状況について、現在、会社発足以来の大ピンチとなっており、2020 年度の決算が 2,331 億円という大きな赤字を抱えることになった。2021 年度についても、お客様の数の中々戻らず、赤字の見通しである。
- 債務については、国鉄時代の債務を 30 数年かけて一生懸命減らしてきたが、コロナ禍によって、これまで減らしてきた分がたった半年で戻ってしまい、現在、約 1 兆 7,000 億円という膨大な金額になっている。そのような中、先般、公募増資を行ったところである。
- 2020 年度は、鉄道事業の収入が半分（8,568 億円から 4,194 億円）になり、さらに新幹線からの収入も減少した。これまで、新幹線の収益でローカル線を補助してきた部分があるが、現在、内部補助ではカバーしきれなくなっている。また、足元では、お客様の利用の回復のペースが従来の予想よりも緩やかになっている。

###### イ. JR 西日本の目指す姿

- 目指す未来としては、「人々が出会い、笑顔が生まれる、安全で豊かな社会」というものが一番の目標である。
- その目標に向かって、「中期経営計画」でも「地域共生企業」として使命を果たすことを宣言している。地域が活性化しないと、鉄道の利用も増えていかない。地域の発展と JR 西日本の発展を上手くリンクさせ、地域と一緒に事業を進めていく。そのために、「挑戦し続ける企業」でありたい。
- グループとしては、「地域価値」、「線区価値」、「事業価値」を上げていく。
- 地域とグループの間で、Win-Win の施策を実施することで、地域は活性化し、人口が増え、税収や行政サービスもアップする一方、JR 西日本としても持続的な成長につながっていく。

#### ウ. 草津市との連携

- 2011 年 2 月に、JR 西日本として初めてになるが、滋賀県と包括的連携協定を締結し、これまで滋賀県全体で様々な取組を行っている。例えば、吹田市の吹田サステイナブルスマートタウン(SST)に住んでいる方に週末には高島市に来ていただき、自然に触れ合ってもらえるような施策も実施している。
- 南草津駅の乗降客数は、コロナ禍で少し減ったが、一貫して右肩上がりになっている。長期的に 2045 年には日本全体の人口が 10%から 20%減っていく中、草津市はほとんど変わらない状態であり、鉄道事業としてもとても重要な場所であると考えている。
- これからも草津市とは二人三脚の取組を進めていきたい思いを持っており、2020 年 12 月には、ハイライン協定を締結した。これは京都の梅小路エリアにある廃線となった高架橋と、草津市の草津川跡地公園がともにニューヨークのハイラインをモデルとしているという共通点から相互連携しようということがきっかけとなった。
- 草津市の南草津エリアのまちづくり懇話会に委員として私も参加させていただいたが、駅を中心としたまちづくりを地域の皆様と一緒に考えられるということで大変有り難いと感じている。
- JR 西日本として、まちづくりのビジョンのほかにも技術的なビジョンを掲げている。こういったものがしっかりと組み合わさり、エリアがより発展していくようにしていきたいと考える。



### (3) 宇加江氏による講演

#### ア. 南草津駅を安全に御利用いただくために

- ホームにおける列車とお客様が接触する原因として、最も多い事例が、お酒を飲まれたお客様に関わるもので、およそを全体の6割を占めている。その中でも突然線路に向かって歩き出しそのまま転落するケースが全体の約6割に上っている。
- 全社的な対策として、まず突然線路に向かってまっすぐ歩き出し、そのまま線路に転落するという事故を防止するために、今まで線路に向かって座っていたベンチの向きを線路に対して垂直になるように設置した。
- なお、お酒を飲まれたお客様に対し一番効果的な方法はお声掛けである。危険な動きをしている方がいれば、係員にお伝えしていただくとともに、線路内に人が倒れていて列車を止める必要があると感じた際は、ホームに設置されています非常ボタンを押していただきたい。
- ホーム上の点字ブロックより線路側と車両の間を L 空間と呼んでいるが、列車との接触の危険が高いため、注意喚起の放送を実施したり、運転士による汽笛吹鳴を行ったりしているが、これはお客様の安全を最優先に考えているためである。
- 駅係員や乗務員の目が届かない場合については、お客様の協力が不可欠である。何か危ないと思われたときは迷わずホーム上にある非常ボタンを押してもらいたい。

#### イ. 駅係員の仕事内容について

- 朝の9時から始まり、翌日の9時半に終わる泊まり勤務が基本であり、内容としては、改札口、みどりの窓口でのお客様対応、券売機や精算機のお金の回収、ポスターの整理などを行っている。
- 点呼は一日のはじめに行う。初めに福知山線の事故への反省と、このような事故を二度と起こさないという安全の決意を込めて黙祷する。

- 車椅子を御利用のお客様や目の不自由なお客様など介助を必要とされることがあるが、介助のことを「エスコート」と呼んでいる。お客様が駅に来られた時に専用のシートに必要事項（降車駅・列車・乗車位置）を書き留めて、お客様に安全に乗車いただくお手伝いをし、降車駅の乗務員と連携しながらエスコートを遂行している。

#### ウ. 未来の南草津駅

- キーワードの一つ目は、「IoT 化」である。人口減少による労働力減少への対策としても重要になる。例えば、駅などにある機器とインターネットの回線をつなぎ、接続した機器同士で情報交換をする仕組みでは、“MAMORIO”というデバイスをつけた持ち物を紛失してしまった時、忘れ物センターにその持ち物が届くと、自動でスマートフォンなどにお知らせがある。
- また、実証段階ではあるが、BRT（バス高速輸送システム）は、安全安定輸送と自動運転、他の交通機関との乗り換えをスムーズにする輸送力の調整を柔軟化する目的で運用実験を開始している。
- 二つ目のキーワードは、「非接触化」である。新型コロナウイルス感染症の影響で、非接触がニーズとしても求められている。例えば、これまでのみどりの窓口に代わり、コールセンターでお客様に対応する「みどりの券売機プラス」の導入を進めている。また、チケットレス化も近年、進展してきた。今後も、安心・快適に利用できるツールの進化やコスト削減と環境への配慮などの観点から非接触化を進めていく。
- 今年の9月末に近距離の回数券を廃止したが、ICOCAの利用を進めていただくよう、ICOCA ポイントの拡充を図っている。紙の切符に代わり、ICOCA の利用を推進することで、利便性向上のほか、コスト削減や券売機付近での密の防止などの効果がある。
- 三つ目のキーワードは、「MaaS」である。MaaS とは、“Mobility as a Service”のことで、あらゆる交通手段を統合し、ワンストップで予約・決済・利用できるようなという概念である。JR 西日本では、移動生活ナビアプリとして“WESTER”（ウェスター）を提供している。このアプリの利用により、時刻検索、遅延証明書の取得、列車走行位置の把握、駅周辺店舗のクーポン取得などができる。
- 以上の三つのキーワードを満たしていくことで、新しい南草津駅が生まれてくると考える。



#### (4) 阿部氏による講演

- 鉄道というものは、新しい時代にどんどん変わってきている。例えば、滋賀県では近江鉄道の上下分離への移行も行われる予定である。ほかに、京都丹後鉄道を運営している WILLER (ウィラー) では、列車をいかに地域の価値を上げるためのツールとして利用していくかという考えのもと、「移動」に加えて、「観光」、「交流」、「物流」、「ライフライン」、「地域コミュニティ」に付加価値を見出していくという戦略を進めている。
- 鉄道は沿線の移動だけではなく、駅から離れた場所への移動という観点、MaaS をどうしていくかということが重要だが、京丹後鉄道では、AI オンデマンド交通の実証実験を進めている。これは、JR 西日本で進めておられる方向性にも見られるものだと思う。
- 駅からどのように色々な場所を結んでいくかということが、これからの駅の大切な役割なのではないかと考える。自治体と一緒に連携していく際にも駅員の方は現場を知っておられ、利用者の方の生の声も一番知っておられると思うので、一緒にこれから考えていければ良いと思う。
- 駅だけでなく駅前の空間をいかに活用していくかという点で、研究室の学生が JR 南草津駅前でグランピングなどの実験「パブリックハック」を行った。単なる移動のための空間に限らず、駅周辺で快適に過ごすにはどのようにしたら良いかということ考えた。
- また、大学の授業では、駅前広場をいかに新しい公共空間に生まれ変わらせていくかという内容で、学生にデザインを考えてもらった。さらに、地域の方にも参加いただいて、将来に駅前広場をどうするかを考えるワークショップも社会実験として実施している。
- 少し構想してみたのが、南草津駅内の通路の半分を日時限定でカフェにするという

アイデアである。窓に面して座れるスペースがあれば心地良いのではないか。ほかに、子どもがちょっと遊べる場所など、南草津には必要だと感じる。

## 5. 質疑応答

(1) Q: 運転士の方が持っているカバンには何が入っているのか。

A: 運転士の乗車する風景を御覧になられたことがあるかもしれないが、運転時刻表と呼ばれる時刻表をもとに運転している。よって、その日に運転士が担当する列車の時刻表が入っている。他にも運行に必要となる規程類やマニュアルが入っている。昔は紙であったが、これらは、現在、会社から支給されているタブレット端末にデータ化されている。また、草津線では現役で走っている国鉄時代の車両のブレーキ用ハンドルというものもある。

(2) Q: 駅員の方は、どこに住んでいるのか。

A: 自由に場所を選んで居住でき、JR 沿線の場合も、私鉄沿線の場合もある。乗務員、駅係員とも基本的には泊まりでの勤務のため、それぞれの仕事により出勤時間が定められている。また、乗務員は終点の駅等にある宿泊所で泊まる。駅係員は駅の施設内で泊まっている。

(3) Q: 例えば、姫路など遠方での事故で、なぜ南草津駅の電車が立ち往生してしまうのか。

A: よくお問合せをいただくことだが、動線がつながっており、例えば、京都までは定時で運行しているが、京都から先の姫路までは止めるということは難しい。何とか知恵を絞って、お客様に御迷惑がないような取組を考え、列車の運行管理をしており、御理解いただければ有り難い。

(4) Q: 南草津駅にホームドアは設置されないのか。

A: 安全上、ホームドアは非常に大切なものであり、南草津駅への設置も要望をいただいております。その重要性を認識している。ただ、全ての駅に設置するということは費用の面からも中々難しいため、利用者数の多い駅のうち転落事故の多い駅に優先順位をつけて対応している。すぐの設置とはならないが、そういう背景があるということで御理解賜りたい。

(5) Q: ホームドアは、ホーム柵式とロープ式ではどちらの方が、価格が安いのか。

A: 一概には言えないが、ロープ式は車両の形態を選ばないという利点がある。柵の場合、ドアの位置を合わせていかなければならない。また、柵を設置する場合、夜間にしか工事が行えず、設置まで時間がかかる。

(6) Q: 時刻表は便利だったが、なぜ廃止されてしまったのか。

A: 昔と比べるとインターネットが発達し、スマートフォンのアプリの利用など技術も進歩している。コスト削減という面のほかにも、事故へ早くに対応できるということで、先ほどお話した“WESTER”メリットもあるので、そちらの説明も行いながら利用を推進しているところである。

(7) Q: 列車の遅延などで電車からバスに乗り継げないことがある。二次交通について何か展開はあるか。

A: 遅延している時などバス会社とも連携しながら二次交通との接続を行っていただくと考えている。

(8) Q: WESTER をダウンロードしてみたが、イベント情報なども盛り込んでいただければさらに良いものになると思う。

A: 現在、スタンプラリーなども実施している。今後、駅や支社に情報など寄せてもらえば、適宜、対応していきたいと思う。つながりの中で色々実現していければと思う。

(9) Q: 南草津駅の待合室がなくなってしまったがなぜか。

A: お客様が歩かれるスペースの確保など安全面を配慮して撤去を行った。自動販売機の設置など要望等あれば、お声を寄せていただければと思う。

(10) Q: 湖西線の車両は多いと思う。ダイヤを減らすのではなく他の方策もあるのではないか。

A: 当初 10 年後、20 年後を見越していた人口減少によるお客様の利用の減少が、コロナ禍によって今やって来たような状況にある。そのような中、利用が中々見込めないところに列車を走らせるということは大変に難しい。

(11) Q: 鉄道以外の交通との情報の連携はどのような状況になっているか。

A: まずは WESTER への JR グループや鉄道の情報の集約が重要だと考えている。他のアプリとの連携はこれからだが、地域 SNS アプリ PIAZZA (ピアッツァ) の活用なども進めていければと思う。

## 6. まとめ

- JR 西日本では、新しい鉄道や移動の在り方を探求しながら、「地域共生企業」として、地域とともに地域の価値を向上させるための様々な取組を実施している。
- 立命館大学を中心として、大学では南草津駅や駅前の空間をより魅力的にするため

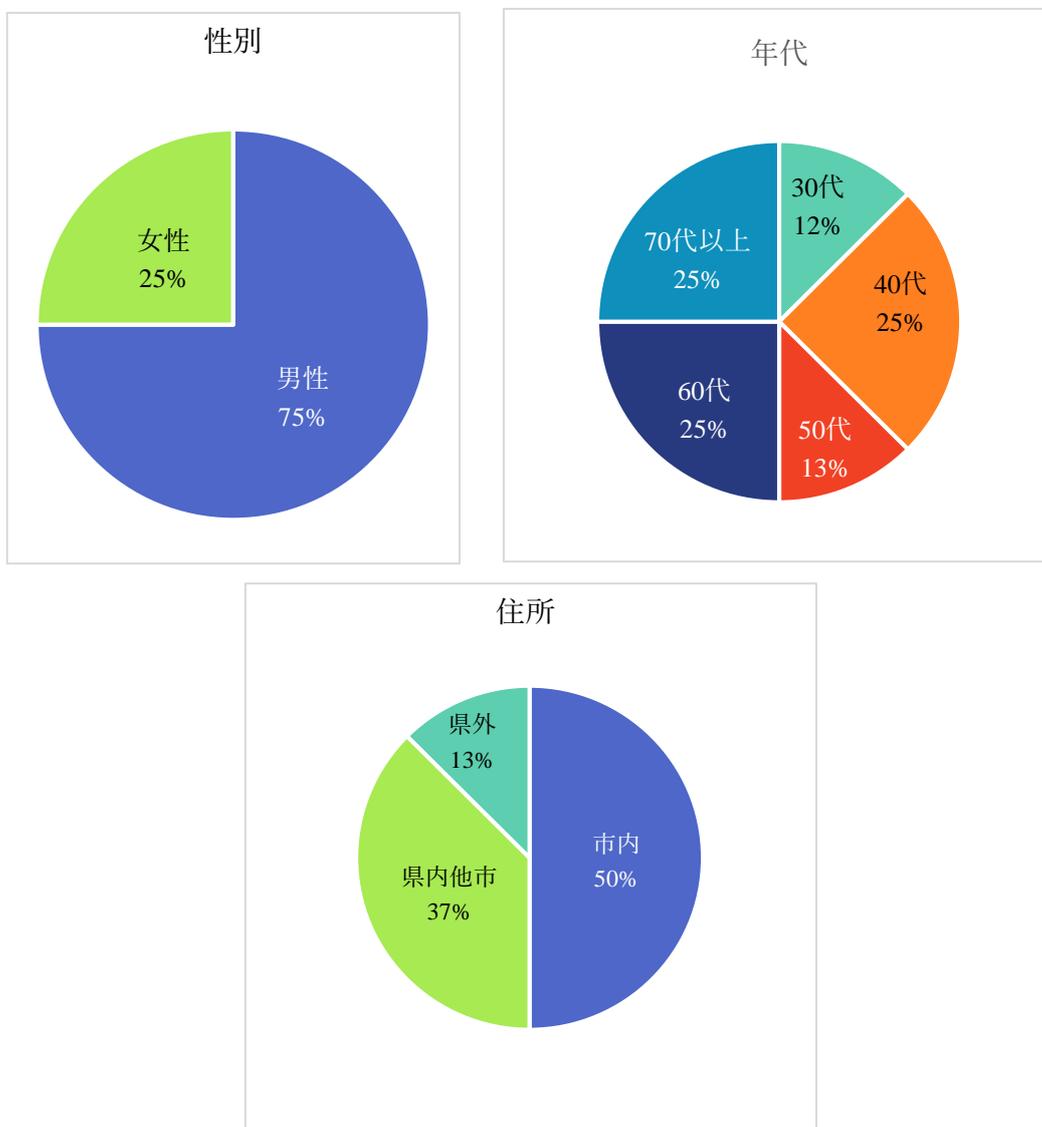
の様々な構想を地域の人々とともに考えている。

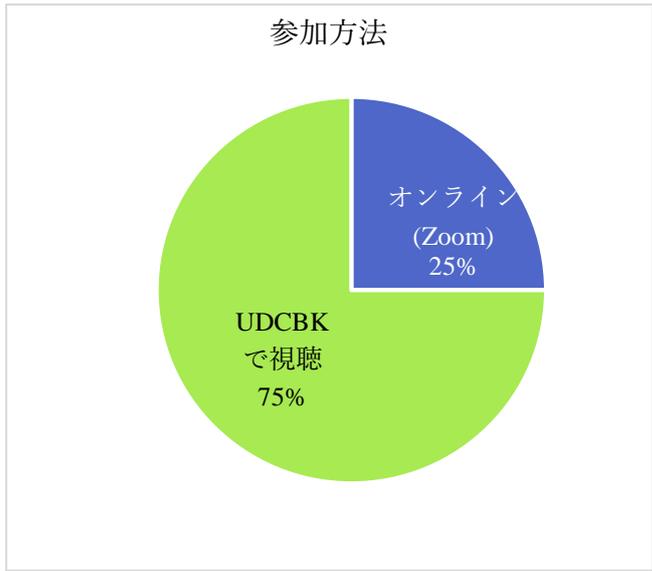
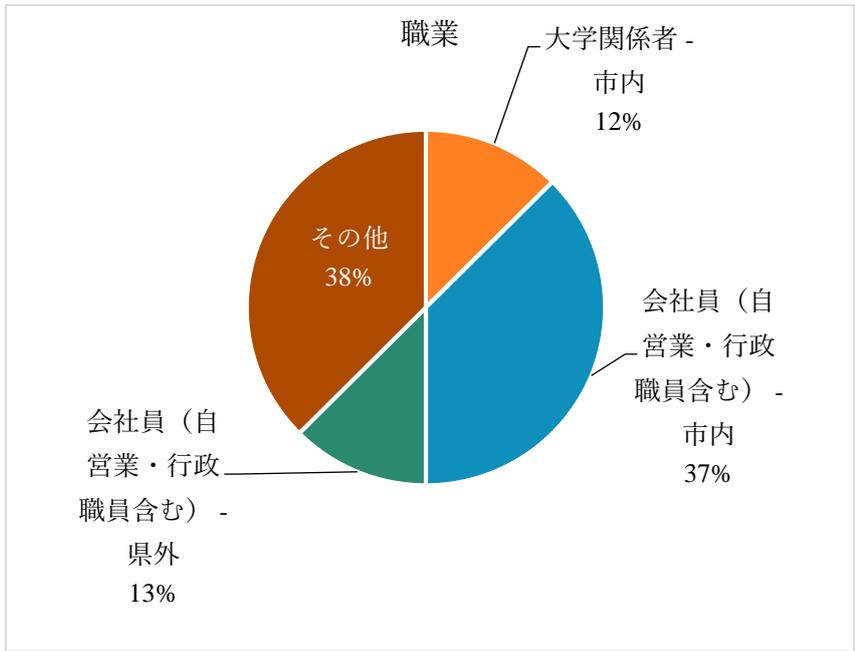
- 企業や大学などで構想されていることを持ち寄って、共有することの大切さを改めて感じた。産学公民の様々な主体が一緒になった、まちづくりについての新しい動きを推進していくことが産学公民連携のプラットフォームである UDCBK の役割でもあり、今後も様々な構想を持たれている方々との連携の中で、できることを考えていきたい。

## 7. アンケートまとめ

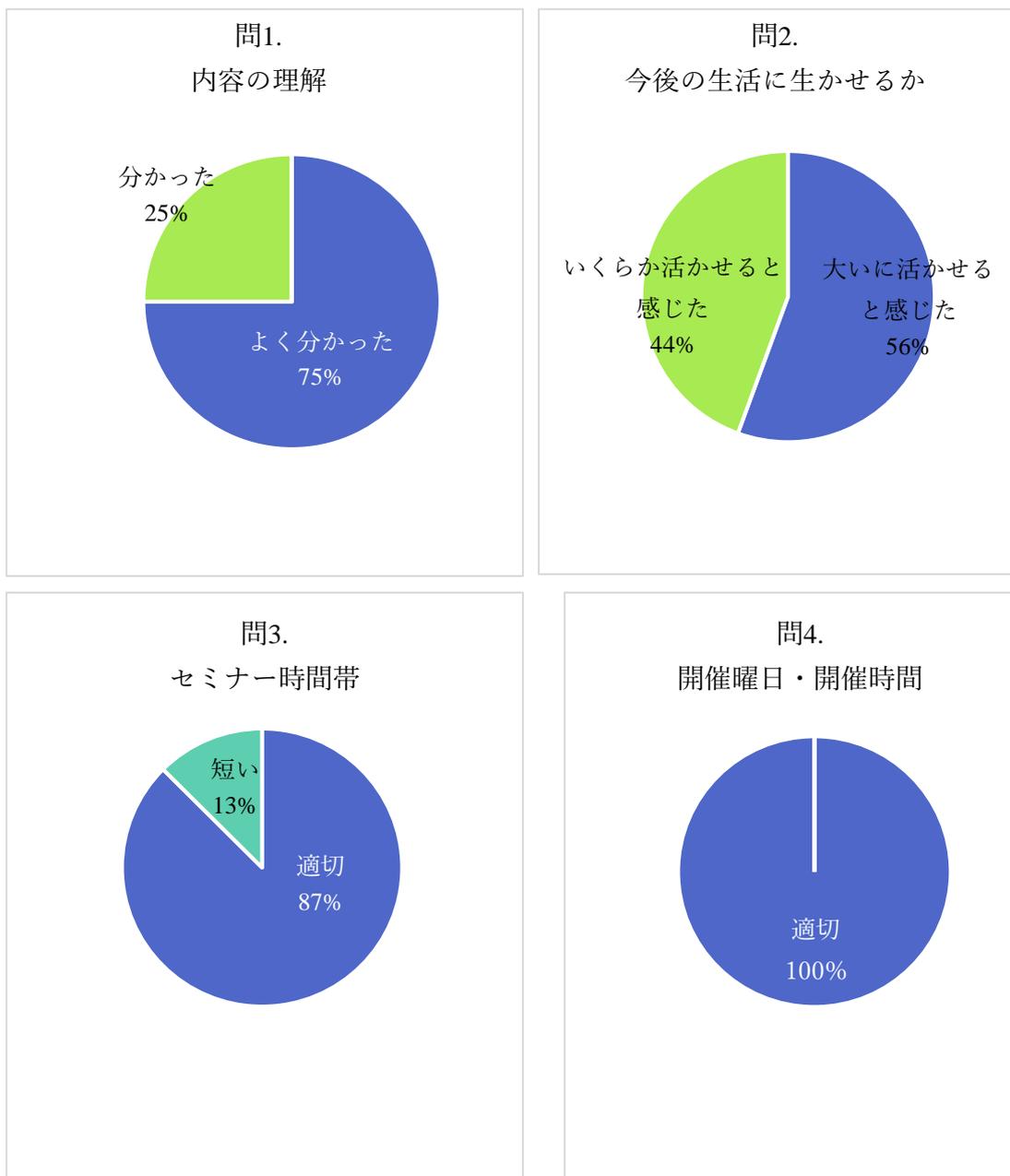
### (1) 参加者属性

参加者 20 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 8 名、回答率は 40%だった。





(2) 内容について



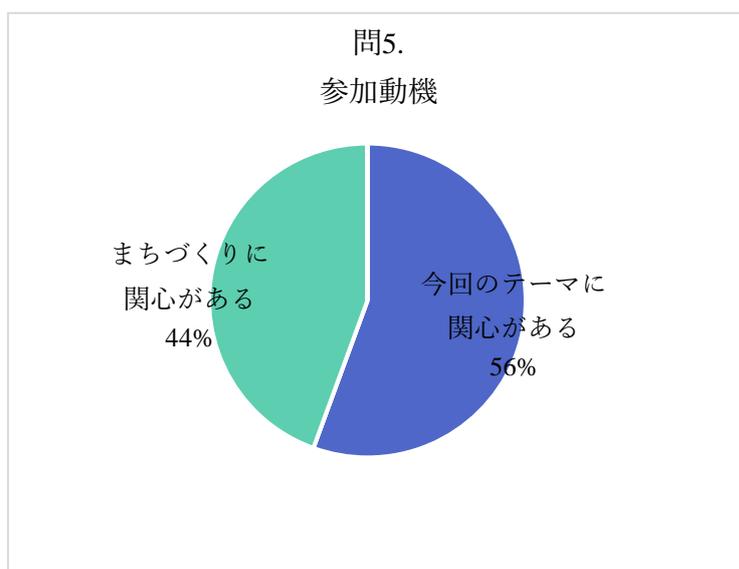
[自由記入欄回答]

問3. 時間はどうでしたか。

回答なし

問4. 開催曜日、開催時間は適切でしたか。

早い日に日程をお知らせ頂ける方がありがたい。



【自由記入欄回答】

問6. それぞれに関心のあるテーマについて御自由に記載ください。

- 今回のセミナーに参加して、JR職員さんを変えたセミナーを、もっとテーマを絞って、各テーマごとの企画として続けてほしいと思います。テーマとして関心があるのは2つ。
  1. 今回の本来のテーマであった、「駅からみた未来のまち」
  2. 車椅子の方など、身体障害者の方も参加してのセミナーに関心があります。2については、以前、雨の日の通勤時に、ホームのエレベーターの左右を車椅子で移動しておられるのをよく拝見していて、落下されないかと不安に感じていました。当事者の方たちの視線から、気づきを聞く機会があればと思います。(60代女性)
- 今回のようなテーマに関心があります。(40代男性)

【自由記入欄回答】

問7. 今回、印象に残ったこととその理由をお聞かせください。

- 南草津駅というポイントに 事業者からのプレゼンであったこと。会場への出席者は日頃のJRに対する疑問・要望などを出して有意義な交流の場となった。今後とも子供達や子育て世代と交通事業者との情報共有の場としての可能性を感じた。自治体として草津市さんが当日は一步引いており学識経験者の先生方が進行して纏めるのがよかった。(60代男性)
- 実際に働いておられるJR職員さんの普段の勤務のお話、また会場からの、現実にJR使用の際に感じている事への意見(時刻表など)に対する、職員さんの話も印象に残

りました。印象に残った理由は、こうした機会であれば伺えない職員さんの生の声を伺えたからです。ただ、今回のテーマは＜駅から見る未来のまちの風景＞であったので、まちづくりの中心にある駅および周辺の風景についての話があまり聞けなかったのは残念に思いました。今回の様々な意見は貴重だと思いますが、もう少し、テーマを絞る必要があると感じました。(60代女性)

- 今回のメンバーで続編のような企画、楽しみにしています(40代男性)
- WESTERのアプリ(40代女性)
- 引き続き連携していければと感じました(50代男性)